

紫西会報

第 42 号

発行所
茨城県筑西市下山590
茨城県立下館第一高等学校
紫西同窓会
TEL (0296) 24-6344(代)
FAX (0296) 25-4673
編集兼発行責任者
鯨 雅 之
印刷所 戸 頃 印 刷 所

未曾有の大震災に 遭遇して

紫西同窓会長 中山 喜一郎
(三十一回卒)



平成二十三年三月十一日
午後二時四十六分、マグニ
チュード9、震度6強の大
地震が発生し、今までに体
験した事のない揺れを感じ
た。私はピアノの倒れるの
を防ぐのみで、あとは完全
にお手上げ状態だった。自
宅二・三階の家具陶器類の
倒壊破損は正に甚大で陶器
類で壊れたものは「織部、
九谷、備前、伊万里、萩」
等のよいものばかり。残っ

たのは笠間や益子焼の厚手
のものばかりだった。私一
人で留守番をしていた為、
手の施しようもない「しっ
ちやか、めっちゃか」。危険
物のゴミ袋が十八袋にもな
りました。下館でも旧家の
屋根瓦の破損、大谷石塀・
墓所の石塔の倒壊など、正
に被害甚大であった。でも、
物的な損害は手間暇お金を
かけて復元する事も可能で
すが、太平洋の海岸線で津

波によって尊い命を奪われ
た人達を思うと、何とも涙
ぐむばかりです。ご冥福を
お祈り申し上げます。
そして私が四月上旬、筑
西市野殿の友人宅を訪れた
さいに前庭の樹木を見ると、
新芽が枯葉のように変色し、
昨年の葉は堂々と緑を保っ
ていた。正に目に見えない
臭いもない気体、放射線セ
シウム134・137がハ
溝山系の加波山、筑波山の
上を越えて、我が下館にも
その被害をもたらしたのだ
と切実に感じました。

かかるとされる。
――以上十二月十三日の
新聞記事より抜粋――
私は九月から十月末にか
けて筑西市民大学「デリバ
リ・カレッジ」を受講しま
した。テーマは「温暖化と
熱中症」「災害危険情報の生
かし方」「地下水や土壌の汚
染」「放射能の放出と環境」
「原発事故と日本のエネルギー
問題」等。それぞれに研究
を重ねてきた大学の先生の
講義でした。私の知らない
ことばかりで大いに勉強に
なりました。

上、放射線に悩まされなが
ら生活していくのか。我が
県の日立や水戸市等近隣市
町村を含めて、早急に対策
を講じて頂かないと、子孫
の代迄心配の種が付きませ
ん。
ところで話は変わります
が、我が下館第一高等学校
は平成二十五年に創立九十
周年を迎える運びとなりま
した。創立九十周年を迎え
るに当たり、記念事業を行
う為、同窓会・PTA・学
校が協力して準備を進めて
居る次第です。付きまして
は同窓生の皆様にも、甚大
なるご協力を賜り度く宜し
くお願い申し上げます。
同窓生の皆様には、各分
野でそれぞれにご活躍のこ
ととお喜び申し上げます。
又、お体にお気をつけてお
健やかに過ごされんことを
望みます。

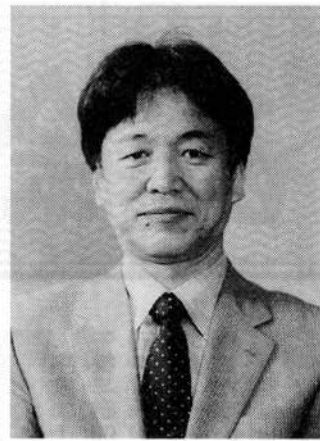


紫西同窓会報に寄せて

校長 原

篤 範

(四十八回卒)



はじめに

紫西同窓会会員の皆様には、常日頃から本校の教育活動について何かとお気遣いいただき、多くのご支援をいただいておりますことにまずもって深く感謝申し上げます。私は昨年の春の定期人事異動で校長として本校に赴任してまいりました原篤範と申します。よろしくお願いいたします。昭和四四年入学、同四七年卒業、四八回生であり、私もまた同窓生の一人でございます。四〇年の時を経て、校長として再び館一の門をくぐる事ができたことの幸せを感じながら、生徒と

とともに生活し、充実した毎日を送らせて頂いております。

創立九〇周年

本校は、昨年三月に定時制が六三年の長い歴史を閉じたことにより、各

学年七クラスの全日制普通科のみの学校となりました。創立からの歴史は、下館商業学校から始まり、下館工業学校、或いは、商業科、工業科、普通科を併せ持つ総合高校など、時代の要請を受けながら変遷してきたものでした。その間、地域社会はもとより、全国に幾多の卒業生を輩出し、その数は二万数千に及んでおり、それぞれがそれぞれの分野で日々活躍を続けておられます。

準備を整え、去る一二月一〇日の同窓会総会において、周年行事について提案し賛同をいただきました。今後は、中山会長をはじめとする同窓会役員、PTA役員、学校職員の三者で構成した実行委員会を立ち上げ、二年後を目標として細部を詰めていきたいと思っております。会員の皆様には、今後何かとご協力をお願いする場面が多々あると思いますが、周年行事の成功に向けてお力添えをお願いいたします。

活躍する生徒

上に大きく成長させてくれることを信じています。校内の大学入試総括報告会では、合格者の持つ共通点が二つあげられていました。一つは、部活動など学校生活が充実していたこと、二つ目は、教員や友人と十分なコミュニケーションがとれていたことです。合格の秘訣は充実した自学自習なのではないでしょうか、学校という空間で社会性を身に付け、個として自立していくことが自ら学ぶことにつながるのだと思います。

運動部、文化部の諸君も

昨年度に引き続き大活躍いたしました。ライフル射撃部、剣道部、陸上部、水泳部が関東大会に出場し、特にライフル射撃部はインターハイにも出場して三年連続全国大会出場ということで表彰を受けております。剣道部は一七年ぶりに団体で関東大会に進出したのですが、インターハイ予選でも県三位と名門復活の兆しを見せており、陸上部は関東大会出場の余勢を駆って、秋の新人戦では三三年ぶりに県西大会総合優勝を果たしています。また水泳部の藤田聡子さんが国体四〇〇メートルフリーリレーのメンバーに選出され、八位に入賞するという実績も残しました。その他、軟式野球部が県大会準優勝、弓道部、サッカー部等の活躍など素晴らしい成果をもたらしてくれました。前校長である宮本節先生が推進してこられた文武両道の教えが開花したものと思っております。

文化部の活躍も傑出した

ものでした。放送部がラジオドラマ部門で県大会優勝を果たし全国へ、文芸部が山形で行われた短歌甲子園で全国団体三位、放送部、文芸部、新聞部が全国総合文化祭に県代表として派遣され、書道部は来年度の総文祭富山大会への派遣が決まっております。後生畏るべし。皆さんの後輩も続々と後に続いております。

学校力

最近、学校力ということがよく頭に浮かびます。生徒は下館一高に入学した時点で本校の進路指導の体制の中に包まれ、三年間鍛えられて大学に合格していき

同窓会便り

山口和久

(四十八回卒)

四〇年ぶりの再会

昭和四十四年、普通科一年D組に入學して、四十三年、そして、卒業し、早四十年が過ぎました。歳を重ねてくると妙に若かりし日々の事が思い出され、青春時代、特に高校時代の仲間が無性に会いたいなあと思っていました。仲間内では、

演をしていたきました。「駅ナカ」の開発にかけた鎌田さんの情熱と創造力に生徒達は圧倒していました。一流を見て、聴いて、感じる機会を提供できる環境も学校力の一部と考えています。同窓生の皆さんのお力もお借りして下館一高の学校力を上げることが大切であると考えております。

最後になりましたが、同窓会会員の皆様には、今後とも母校へのご支援、ご協力をいただきますようお願いいたします。あいさつとさせていただきます。

四、五年前からクラス会をやろうという話はあったのですが、幹事（自分）の腰が重く、時間だけが過ぎ去ってしまいました。しかし、今年になってクラスメートの原篤範君が母校の校長になり、話が一気に盛り上がりました。そこで、下館周辺の級友で集まっている「二八会」のメンバーにも声をかけ、佐藤君と桜井君にもお手伝い頂き、「PIDとお友達のクラス会」ということで入学から二年間を一緒に過ごし、一番思い出多い時のクラス会を企画開催致しました。クラスメートとお友達合わせ六十名の方に連絡をしました。が、所在不明の方が多く、二九名の方の参加がありました。恩師の杉山克夫先生もご出席下さいました。

クラス会は筑西市内の居酒屋で行いましたが、宴会の前に「母校見学」を致しました。原君の計らいで校舎の中や教室の中も見学しました。昔と変わらない場所。は武道場と体育館だけでしたが、なつかしい時間が過ぎました。（購買小屋も

昔のままでったような感じでした……四〇年ぶりに見るクラスメートの顔や姿は、最初に会った時はお互い誰だか分からず、なかなか思い出せませんでした。

会場では宴会が始まる前からあちこちで思い出話の花が咲き乱れていました。四〇年の時が過ぎても、若かりし日々ですぐ戻れるものだな、と思いました。近況報告や写真撮影、校歌斉唱などで、アツという間に楽しい三時間が過ぎてしまいました。二次会には十五名が参加して頂き、青春時代の歌をカラオケなどして、楽しい一日が終わりました。

楽しかった、そして苦しかった高校時代に一緒に時を過ごした仲間というのは、姿形は変わっても心の中は何年経っても当時のままなんだなと、しみじみ感じました。遠方より、又お忙しい中、ご参加頂きましたクラスメート、お友達の皆様ありがとうございました。

これに気を良くし、還暦の年に、今度は普通科の同窓会をやるのかな……なんて思っています。



平成二十三年
紫西同窓会
水戸支部
総会報告
支部長 大和田 實
(二十一回卒)

平成二十三年九月二十二日にホテルレイクビュー水戸で幹事会を開催し、三月十一日の東日本大震災が有り、会員の被害者があり、同窓会の懇親会を開催するのは如何するか話し合いをした結果、実施することになり、ホテルに日時を同った処十一月十七日が空いていると云う事で、決定して行う様にした。総会は例年通りホテルレイクビュー水戸で一八時三〇分より二十三年度総会並びに懇親会を開催しました。学校より原学校長(四十七回卒)、同窓会より中山会長(三十一回卒)の御来賓を頂きました。定刻に会員四十五名招待者二名計四十七名にて、卒業回数毎の席で、一年ぶりの再会と和気藹藹の内進行をしました。災害が有っ

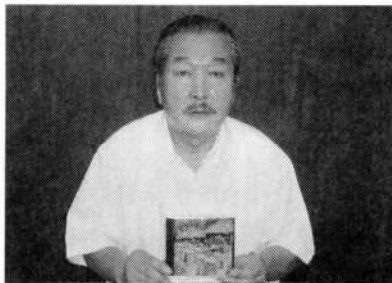


たにも係わらず昨年より出席者が増加し役員一同喜んでいました。学校長より、平成二十五年には創立九十周年記念を開催するとの事で準備を行う事に成り、十二月十日の同窓会本部での総会で話し合うとの話が有りました。学校長は、同窓生の人や皆と打ち解けていました。本日も女性の方が二名の出席が有りまして、和やかでした。愉快地歓談中でありま

したが、中締めとして校歌斉唱万歳三唱をし、二十時三十分散会となりました。会としては毎年出席率が悪くなってきていますので、反省会に諮りどうしたら出席者が多くなるかを検討したいと思っています。会員皆様にも、水戸在住は勿論水戸市に通勤している同窓の方にも声を掛け合って、大勢の方に出ていただき楽しい時間を過ごすことが出来ればと思っています。

ギターリスト

小濱 啓二さん
(四十四回卒)



昭和四二年度本校商業科卒業、現在六三歳。結城市在住である。本校に在学中は、柔道部のキャプテンである。小さいころから、音楽に興味を持ち始めたが、クラシックギターにたしなみ、高校卒業後、東京音楽アカデミーに入学。二年間通い、レッスンを受けた。その後、本場のスペインに渡西した。その経験をいかし、ギター教室を開いて十三年になる。三枚のCDを自費出版している。

「さがりがたし結城」は、昭和時代を思い起こさせるような抒情性豊かな歌謡曲である。「湯西川恋賛歌」は、和を意識している。湯西川は平家の隠れ里で有名だが、琴や三味線、尺八、琵琶など日本の和楽器を用い巧みに表現している。クラシックや和物など多種多彩な小濱さん。今後音楽を続けていきたいと述べている。今後のご活躍が期待されます。

平成二十三年
紫西同窓会
役員名簿

役員	卒回	氏名
会長	三一	中山喜一郎
副会長	三五	稲見庄二
副会長	四一	林 廣明
副会長	四二	吉田 公哉
副会長	五八	関 正樹
監事	四四	石上 信男
監事	三五	荒井 嗣雄
幹事	三八	信山 克雄
幹事	四一	中村 一三
幹事	四一	谷島 英一
支部長		
水戸	二一	大和田 実
協和	二九	高濱 慶弘
関東銀行	三九	桜井 隆
富士通	四七	松村 悦裕

(写真は、十頁に掲載)